

# トビックス 「けんびのアートカード100」でゲームから美術鑑賞

当館のアートカードは、ハガキサイズに図版を大きく印字し片隅にNoが振られただけのシンプルなカードです。R3年に作成し、これまでも紹介してきましたが、最近、徐々に貸出頻度が上がってきました。

小学生対象では5・6名のグループ活動として、絵柄にあわせたものまねをしてカードをあてあうジェスチャーゲームやカルタ遊び、また、企業の面接や研修のウォーミングアップで100枚の中からその日の気分を選んで自己紹介したりと活用の幅も広がってきました。

また、今年1月には、オンライン鑑賞でこのカードを活用して、似たもの探しや、“賑やか”や“冷たい”などのお題に合うカードを探し根拠を発表し合いました。

子どもから大人まで文字のない絵札に自分の気持ちをのせて意思表示することで、美術鑑賞を身近なものにできる可能性を感じています。

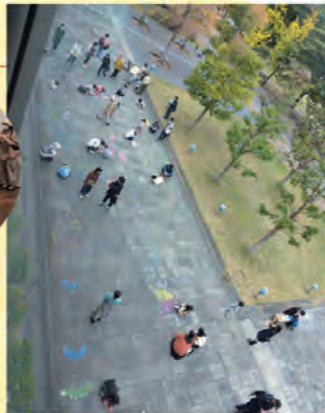
アートカードは学校や児童クラブに貸出を行っています。是非、鑑賞ゲームや来館前のウォーミングアップにご活用ください。(田代 亜矢子)



## レポート 開館26周年記念イベントを開催しました!

2024年11月10日、当館の開館26周年を祝い、「愛媛県美術館 開館26周年記念イベント」を開催しました。コレクション展の無料解放やフロアレクチャー、実験漫画家・西武アキラ氏をお招きしてのワークショップ、毎年大人気の大地は大きな黒板だ!など、作品をみる、作ることを楽しんでいただけるプログラムを、一日をおとして実施いたしました。

今年は閉室中の企画展示室を活かしたプログラムとして「展示室を展示」ツアーを開催。展示室の可動壁の動かし方や、作品を守るための温湿度の維持の仕組み、壁のガラスケースの掛け方など、普段お伝えする機会の少ない展示室の仕組みをご紹介します。質疑応答の時間には、参加者の方から展示方法や展示会の企画について、様々な角度から質問をいただきました。今年も記念日を一緒にお祝いいただき、ありがとうございました!(岩本 成美)



### 学芸員の 仕事道具

## マスキングテープ・養生テープ

紙製のマスキングテープやクロスタイプの養生テープは、私が作業用ポーチに常備しているものの一つです。展示する作品の位置の見当をつける、館内で迷子になりがちな長机やモニターに仕舞う場所をメモして貼っておく、講堂でのイベント時にマイクスタンドや椅子を置く位置の目印を付ける(舞台用語で「ハミる」と言うそうです)、床に貼ってお客様の導線をつくる…。手で切れるし、はがす時に痕が残りにくい、マスキングテープと養生テープは美術館のあらゆるお仕事で大活躍です。

マステの場合、可愛い柄のものも沢山ありますが、仕事では業務用として販売されているものを使うことが多いです。用途や粘着度によって使い分けが必要で、はがし忘れにも注意です。(金成 めい)



### NEWS

## 受賞しました!

令和5年度開催の展覧会「瀬戸内海国立公園指定90周年 わたしのうみ ART/LIFE」で刊行した図録が、このたび「第40回愛媛出版文化賞」の第2部門「美術」の部門賞に選ばれました!

## 観覧券Web販売開始!

県有施設では初! 昨年末より、株式会社リクルートのWebサイトで、コレクション展など県が単独で開催する展覧会の観覧券をオンラインで販売開始しました。



株式会社リクルート  
Webサイト

### ご利用案内

- 開館時間 9:40~18:00(入室は17:30まで)  
※企画展及び貸展については、入室時間が異なることがあります。
- 休館日 月曜日  
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日。年末年始は12/29~1/3が休館日)

### 編集後記

今世紀も四半世紀を迎えます。当館も開館27年目を迎え、当館のプロフィール写真を文化観光推進事業の一環でリニューアルいたしました! 心機一転、引き続き新たなチャレンジに取り組めます。(杉山はるか)



愛媛県美術館  
https://www.ehime-art.jp/  
〒790-0007 愛媛県松山市堀之内  
tel.089-932-0010 fax.089-932-0511



愛媛県美術館ニュースNo.69 2025  
発行日=令和7年2月10日  
編集・発行=愛媛県美術館  
※所載先の表記のないものはすべて当館所蔵作品



創立美術部時代の  
近代美術犬をモチーフにした  
マスコットキャラクター  
「キヨ」(♀)と「ダイ」(♂)

### 企画展・特別展

山川コレクション収蔵記念

# PHOTOGRAPHY 写真のこれまで/これから

2025年1月31日(金)~3月20日(木・祝)

遙か遠方にみえる水平線、そして前方には海辺に生えるイネ科の植物—ただそれだけのとても単純な構図の作品です。しかしながら、この作品には写真史における革新的な要素が端的に示されています。

19世紀末から20世紀初頭にかけて、敢えて焦点をぼかし、色調を調整した絵画を意識した表現「ピクトリアリスム」が主流でした。エドワード・ウェストンやアンセル・アダムスを中心に1932年に結成されたグループ「f. 64」は、写実的な表現を特徴とする写真の原点に戻り、被写体全体に焦点を合わせた「ストレート・フォトグラフィー」を提唱したのです。

この作品では、前景・遠景を等しくとらえた、普遍的かつ画期的な風景が表されています。

本展では、令和5年度県内の実業家・山川浩一郎氏より寄贈を受けた、写真史に名を刻む写真家を多く含む珠玉のコレクション約120点に加え、愛媛県ゆかりの写真家5名による作品約50点を紹介します。愛媛県における写真芸術の軌跡をたどり、今後の発展を促す機会となれば幸いです。(杉山 はるか)



エドワード・ウェストン《草と海 ビック・サー》1937年 山川コレクション

この春、麗しの女神たちに会える

# アルフォンス・ミュシャ展

—アール・ヌーヴォーの華—

2025年4月12日(土)~6月22日(日)

19世紀末から20世紀初め、ヨーロッパを中心に、フランス語で「新しい芸術」を意味する芸術運動、アール・ヌーヴォーが興りました。産業化の進行に伴う画一的な工業製品の急速な普及を背景に、自然に立ち返り、清新な表現を求める芸術家たちによって生まれたこの運動は、絵画や工芸、建築、デザインと、幅広いジャンルに波及しました。植物や生物など、有機的なモチーフや、曲線を用いた華麗な装飾性がその特徴として挙げられます。

アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)は、この運動の代表的な作家の一人として知られます。女優サラ・ベルナルの舞台ポスターによって一躍脚光を浴びた後、数々のデザインを手がけ、優雅な女性像や植物などのモチーフを、繊細で流麗な曲線と端正な構図、華やかな色彩によって表す独自のスタイルを確立しました。

本展は、ミュシャのポスターや装飾パネルのほか、雑誌、図案集、商品のパッケージデザインなど、四国初公開の作品を含む、約500点が一堂に会する貴重な機会です。さらに愛媛会場ならではの企画として、ミュシャの作品に魅了され図案家を志した杉浦非水(1876-1965/松山市出身)とミュシャの関わりに焦点を当てた特集展示も実施いたします。

今年の春は、ミュシャが作り出した優美で華やかな世界をぜひご堪能ください。(岩本 成美)



《黄道十二宮 ラ・ブリュム誌のカレンダー》カラーリトグラフ 1896年、OGATAコレクション



《ジョブ》カラーリトグラフ、1898年 OGATAコレクション



イベントサイト



# 文化観光推進事業より

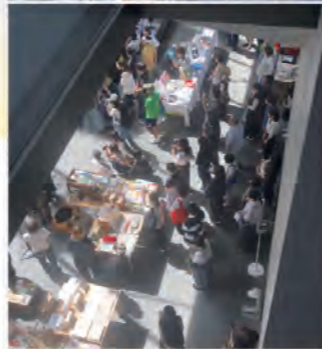
令和5年度より文化観光拠点施設として取り組んでいる、様々な事業からピックアップしてご報告します。

## 愛媛アートブックマート

### Ehime Art Book Mart 主管:本の轍

お家に学校に職場にと、すぐそばにある「本」。電子書籍も便利ですが、読むだけではなく、製本や装幀など、見ても触っても楽しい紙の本の魅力は格別です。近年、本に関するイベントは、好きなもの／ことを共有できる場所として国内外で賑わいを見せています。ブックデザインの仕事を数多く手掛けた杉浦非水と真鍋博の2大コレクションを有する当館でも、昨秋にEhime Art Book Martを初開催しました。アートと本と人々が行き交う「市場」の様に、活気のある場となることを願って名付けられた本イベント、個性豊かな16出店者の皆さんのもと、メインビジュアルを手掛けた友澤健太郎さんによるライブペインティングもあり、来場された皆さんの熱気のお蔭で、無事いきのいい2日間となりました。これからもいきの長いイベントとなるよう、企画をしていきますので、ぜひ遊びにいらしてください!

※今回は、2025年2月22・23日開催。(喜安 嶺)



## 2 17音で美術鑑賞

正岡子規をはじめ多くの俳人を輩出した愛媛・松山の風土を生かし、観光客の方に俳句を詠むことで美術鑑賞を深めるプログラムの開発、しくみづくりに取り組んでいます。これまでに、一人でも簡単に俳句を楽しむしくみや、俳句づくりのレクチャー付き鑑賞プログラムの検討を行ってきました。

一人でも簡単に俳句を楽しむしくみとしては、言葉をつなげるだけで俳句が作れるワークシートを作成し、併せて俳句作りのポイントをレクチャーするショート動画を制作しました。多くの方がワークシートに挑戦し、作品とより深く対話ができ、愛媛らしい企画として、楽しんでいただいています。

俳句作りのレクチャー付きの鑑賞プログラムは、参加者との交流を図りながら、それぞれが詠んだ俳句を通して、様々な作品の捉え方を共有できるプログラムとして来年度から始動します。また、サコッシュに俳句手帖と鉛筆をセットにした俳句吟行セットの販売がまもなく始まり、美術館での吟行が日常化していただくことを期待しています。

来年度以降も、美術と俳句が循環する鑑賞の楽しみ方を発展、浸透させていく予定です。(石崎 三佳子)



## 3 「よくみよう。もっと、よくみよう。」

作品についての質問でも感想でも、鑑賞者と作品について何らか話し合うといった場面に遭遇する時、多くの鑑賞者にみられる傾向があります。

一つ目は作品全体ではなく、作品の部分のみを「みた」と言いがちであること。二つ目は作品そのものではなく、作品に描かれていない作品周辺の知識(情報)を用いて、作品を「みた気になっている」ことです。この二つに共通することは「目の前の作品を十分にはみていない」ということ…です。ななな、なんともない!

このような理由も含めて、美術館では毎月、30分~1時間程度の対話型鑑賞プログラムを展示室で実施しています。プログラムでは、鑑賞者に作品をより詳細に観察することを促し続け、作品に基づいて考えるという行動を促し続けていますが、いかんせん、月に数時間程度では普及しないのがここ数年の悩みの種です…。そんなワケで、今年度から従来の鑑賞プログラムの枠をはみ出し、毎回毎回のコレクション室で、対話型鑑賞の基礎基本を参考に「作品をもう一度見返したくなるような解説文・作品を隅々まで観察することを手助けするためのツール」の試行を始めました。コンセプトは「よくみよう。もっと、よくみよう」です。この試み、今年度は杉浦非水作品、来年度は畦地梅太郎作品、再来年度は真鍋博作品で続けていきます。展示室で「みる筋肉(略して みる筋)」を鍛えましょう!(鈴木有紀)



# コレクション展Ⅳ 2025年1月11日(土)~4月6日(日)

## みる冒険 かたちのカタチ

「かたち」とは、視覚や触覚で捉えられる、ものの有様、外見の姿や態度を意味します。実在するそのものかたち、空間の重なりや自然現象によって生み出されるかたち、美術に表現されたかたちの中で、誰も気になるかたちや心奪われるかたちと出会った経験があるのではないのでしょうか。

ものの捉え方は様々で、美術では、対象の単純化やデフォルメなどによって、オリジナルのかたちを創造することがあります。時にかたちの繰り返しや組み合わせの追求は、作家のかたちへの関心が示されます。また、かたちを持たないもの、現象や感情といった目に見えないものにかたちを与え、表現することもあります。

本展では、造形を成り立たせる基本的な要素であるかたちに着目し、美術の中の豊かなかたちや作家が関心を寄せたかたちを味わっていただければと思います。また、日々の生活の中でも、ふと本展で出会ったかたちを思い出したり、心動かかたちに出会ったり、かたちを楽しんでいただければ幸いです。(石崎 三佳子)



菅井汲(EiYU) 1959(昭和34)年



古茂田守介(静物(2)) 1955(昭和30)年

## 「生誕200年 天野方壺一画と詩と旅と」

松山出身の文人画家・天野方壺(1824-1895)は、2024年に生誕200年の節目を迎えました。幕末から明治期にかけて活動した方壺は、生涯を通して日本各地や中国・上海を旅し、様々な画家たちと交友を持ちました。そして、それらの交友を通じて画技を磨き、自己の画風を構築していきました。当館に収蔵されている作品群をみると、その画題、画風は実に多彩です。

方壺は詩を典拠とした作品を描いたり、画賛に詩を書き入れたりすることもありました。本展ではそれらの作品を、中国の文人、そして文人に好んで描かれた故事を題材にした作品とともにご紹介します。江戸や仙台などの旅先で描かれた作品、季節の風物を画題とした作品と共に、幅広い作品の魅力をご堪能ください。

また、三好藍石や手島石泉といった愛媛出身の文人画家の作品や交友のあった富岡鉄斎の作品も展示していますので、あわせてお楽しみください。(横尾 真耕)



《花果園》1886(明治19)年 《西園雅集図》1882(明治15)年 いずれも天野方壺作

## 「愛媛県美の写真コレクション」

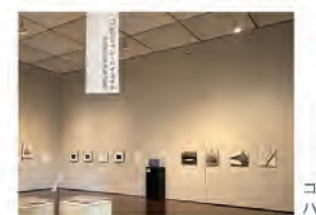
コレクション・ハイライトでは、1月31日から3月20日開催の特別展「山川コレクション収蔵記念 PHOTOGRAPHY 写真のこれまで/これから」と連動し、愛媛県美が所蔵している写真作品や写真に関する資料をご紹介します。

愛媛県ゆかりの写真家である、新山清(1911-1969)、白岡順(1944-2016)、香川久士(1971-)の作品から始まるこのコーナーでは、三者によるそれぞれの風景の切り取り方・見つけ方の違いに加え、写真の明暗や濃淡にも注目してご覧ください。

さらに写真家たちの作品に加え、郷土出身作家である、杉浦非水(1876-1965)、真鍋博(1932-2000)と写真との関わりを示す作品や資料もご紹介します。日本におけるモダンデザインの先駆者として知られる杉浦非水。そんな彼のアマチュアカメラマンとしての一面がうかがえる写真資料や、戦後、イラストレーターとして活躍した真鍋博による「フォト・コラージュ」の作品など、写真とデザインの接点を感じながら見ていただくと幸いです。(宇野 茉莉花)



杉浦非水《土管の雪》1934(昭和9)年



コレクション・ハイライト展示風景



去年4月から美術館勤務となり、毎日松山城と城山公園の絶景を眺めながら仕事ができることに、喜びと幸せを感じています。来館される外国人観光客も増えてまいりましたので、当館を通じて、日本の美術や文化・歴史などに興味を持っていただけると嬉しいです。(三好 陽子)



南館の空調工事終了に向けて、アトリエや友の会教室の再開準備を始めました。友の会では洋画・陶芸・書道など講師による丁寧な指導付きの教室を開催しています。またアトリエでは利用者のリクエストに応じた版画・染め・織り・写真・木工の創作体験が行えます。興味がある方は美術館まで。(田代 亜矢子)